ゲームマシン THE GAME MACHINE

発行所
日本出版企画制作株式会社
大阪市北区木幡町45 アドビル401号
〒530 電話 06（314）1458（代）
東京支社 東京都渋谷区渋谷3-6-18 荻津ビル 4F 〒150 電話 03（407）7638
郵便振替 大阪 41959
年間購読料（送料共）7,200円

「大阪メダルゲーム協同組合」総会

役員、執行部の大半が辞任

組合解散案否決、組合運営継続を決議

昨年十月の発足以来、多くの問題を抱えていた「大阪メダルゲーム協同組合」は、さきほど開かれた総会などを経て、役員のほとんどが辞任、脱退し、残った役員でなお組織として継続することになった。

同組合は一月二十四日大阪国際ホテル八階会議室において総会を開催し、組合存廃について討議を行なった。総会には辻理事長をはじめ四十七名が出席（組合員総数八十二名）、出席過半数により有効に成立したことになる。

総会では最も重要な議題である組合解散について、まず組合執行部から次のような内容の提案がなされた。メダルゲームの違法営業により組合員ならびに役員の中から被逮捕者が出ており、執行部としては組合活動をもはや続行することができない。以上の説明により、執行部提案どおり組合を解散するか、あるいは継続して活動していくか、出席役員四名をのぞく出席組合員全員による記名投票を行なった。

その結果、組合を継続するという意見が三十八名、組合を解散するという意見四名、保留ないし棄権一名で、執行部提案は否決され、実質上、執行部不信任というかたちとなった。しかもこのあと、四組合員が脱退を表明、事実上の脱退を行ない、一方、なお組合をして継続していく旨の決議が出席組合員の過半数によってなされるなど、会議としては混乱するかたちのまま散会。

このあと役員は再度集まり、二月三日をもって次の内容で収拾することになった。

理事長辻勇氏（株）角栄社長）＝辞任、脱退。

副理事長河合久男氏（株）マル三商会社長）＝辞任、脱退。高桑修氏（元（株）パシフィックエンター社長）＝辞任、脱退。中村欽也氏（東宝商事（株）社長）＝辞任。

理事平井登志夫氏（株）ジャパンレジャーサービス社長）＝辞任、脱退。木下勝治氏（日本ユーザー（株）社長）＝辞任。山田勇氏（ゲーム場経営）＝辞任。坂本音市氏（ゲーム場経営）＝辞任。

組合最高顧問の岩見豊明氏＝辞任。事務局長三好敏夫氏（日本出版企画制作（株）社長）＝退職。

なお副理事長のうち山木政雄氏（株）日本バーリー社長）、角野博光氏（マックス社長）は当面組合にとどまり、山木副理事長が理事長を代行。角野副理事長が補佐するかたちで、暫定的に運営を続け、二月二十日に再度臨時総会を開き、役員を新しく選任する予定。従って事務局所在地も、次のところへ移転した。

大阪市阿倍野区旭町一の一の十、日本バーリー（株）内、電話〇六（六三三）八一二一。

とばくゲーム 容疑で運営困難に

解説

同組合は昨年十月三日に開かれた設立総会、十月二十八日に開かれた緊急総会を通じて、メダルゲーム場での健全娯楽推進をたてまえとして運営されることになっていた。しかし、十二月二日に山木政雄副理事長が、メダルゲームによるとばくほう助の疑いで逮捕され、また組合員のなかから同様の疑いで逮捕される者が相次いだ。

こういう実情では、健全娯楽を旗じるしにまともな組織運営を続けるのは当然無理である。と判断した役員たちがこのほど、組合解散を提案したのであるが、それもできなかったという事情で、混乱のままに〝辞任、脱退〟となったのである。

組織的な活動、運営もただ「法的保護」を警察当局に陳情しただけという内容で、これといった活動もないまま、役員などなん人かがこれで組合から退いたが、あとに残った組合にしろ今後どういう活動、運営をするかが疑問視されている。

論潮 コピーは野放し状態か

コピーという言葉がしばしば混乱して用いられている。同じものを作るということから、似たものを作るということまでその意味はどこまでも拡散していく。その結果、もともとのとは全然ちがうものですらコピーという場合がある。

しかし一般に機械の製造、販売にたずさわっている人たちにとって、コピーとは、他人のつくったものをマネすることに限られている。つまり、ある商品に人気がありそれも品薄だということになると、他の業者がその商品をマネして作るということである。

また、あるメーカーの人気商品に対し、それをマネた商品を多く製造し安く売ることによって、もとの人気商品の価値を下げさせようとする場合もあるが、こうなるとコピーは不正競争の典型的な手段となる。

もともとコピーすることは許されないことで、とくに商品をコピーすることは公正な競争に反する行為である。これは、コピーライト、つまり著作権という法的権利の問題ともかかわる。著作権さえあれば、創作物は保護を受け、他人による勝手なコピーを禁じることができるようになっているわけだ。だが、それにも制限はあるし、商品によってはコピーが当然だというものもある。

そのため明らかにこれは保護される。というものが法律で認められている。商売に関するものでは商号、屋号など。商品についての特許、実用新案、意匠など。文章、写真、音楽などに関するそれぞれの著作権など……。これらについて争いがあるとなれば、裁判所で一応の結論を出してくれることになっている。

ゲーム機ではだいたい似たりよったりのマシンがよく出される。どこまでがコピーで、どこまでがコピーでないか、ということも実は問題だが、ほとんど同じ機械で名前だけがちがう、というものも見受ける。マネされたほうは、きっと歯ぎしりしているか、あるいはマネされることを誇りにしているか、のどちらかであろう。

だがしかし、デザイン（意匠）にしろ、なんにしろ、そういう法的な権利を争うためには、前もって登録が必要である。ゲーム機ではそれがまずされておらず、早く売切ることに重点がおかれている。これでは争うわけにいかないし、権利も主張できるわけがない。

タイトー '75新製品発表会

二月十四、十五日、本社で開催

㈱タイトー（本社＝東京都千代田区平河町二の五の三、ミハイル・コーガン社長）では、きたる二月十四、十五日の二日間、本社ショールームにおいて「'75新製品発表会」を開催する。

同社はゲーム機業界における最大手のひとつであるが、今回の催しではメダルゲーム機、ビデオゲーム機、ジュースボックスという三要素をうまく結合させ、それぞれの新製品を紹介する。

出展種類は約三十。とくにきわだつ製品は次の三点である。

①「コーダ・フォニック・ファーストエディション」＝四チャンネルのジュークボックスで、百六十曲用。米国シーバーク社製。とくにこの発表会では、試聴コーナーを設け、来場者に製品のよさを味わっていただくことになっている。

②「スピード・レース」＝ビデオゲーム機で一人用。定評ある同社の自社製品である。

③「ダークホース」「ラクシーフォール」＝いずれもマス（メダル）ゲーム機。それぞれ競馬、自動車レースなどをモトにつくられた、ご自慢の自社製品。

開催日時は十四、十五日の両日とも午前十一時から午後五時まで。今回分は東北から東海地方までを案内の対象として、三月中旬には関西でも開催する予定。なお詳しくは同本社営業部☎〇三（二六四）八六二一まで。

銀座でお正月ゲーム カーニバルプラザ'75

JOB

ジャパン・オーバーシーズ・ビジネス㈱（本社＝東京都港区赤坂六の六の十六、黒田ハイツビル、浜田正毅社長）では、お正月を東京銀座に特設したメダルゲーム機で楽しんでいただこうと、「カーニバルプラザ・フェスティバル'75」を開催した。

これは同社が、銀座ソニービル八階サロンで、十二月二十八日から一月十二日までの十五日間（ただし元日は休み）にわたって催したもので、カロラマ、ニューペニーフォールなどマスゲーム機三十台を設置。広く一般の利用客に、ふつうのメダルゲーム場と同様のシステムで遊んでもらい、いろんなアトラクションも楽しんでもらう、というもの。

同社は欧米からマスゲーム機を輸入販売するとともに、メダルゲーム場の企画サービスも行っているが、この催しでも同社の扱う主力ゲーム機を配置した。利用客の入りもよく、平均一日二千人（同社発表）で、ほとんどが若い人。マスゲーム機は、メダルゲーム場の中心的存在なので、さらに人気が広がると同社では見ている。

海外からのたより

インフレで一ドル札識別機を取付けて一回分サービス

米国から新年の報告が届けられた。それによるといくつかの特徴ある現象があらわれているとのことである。

もっとも注目されるものとしては、ゲーム機のロケーションの新しいシステムで、とくにカルフォルニア州で人気を呼んでいるとのこと。これはロケーションの開発を専門にしている会社が、一般投資家を対象にビデオゲーム機を売り、そのかわりにロケーションの選定や機械の修理サービスを一年契約で保証するというシステム。一般投資家は、毎週集金してはロケーションオーナーと半分ずつ売上げを分けあっている。従って、パートタイマーで現金収入ができる、と受けている。なおロケーション先は、スナック、バーのほか学校や病院と幅広く、投資者も相当多くなっているとのことである。

ふたつめはインフレによりゲーム料金の扱いが変化しつつあること。インフレによって、ゲーム機やジュークボックスに、一ドル札識別機がとりつけられ、これによって数回のプレイを割引いてセット料金にする、というシステムが出てきている。つまり、一ゲーム二十五セントのゲーム機に一ドル札を入れると、五回プレイできて、ちょうど一回分割引くことになる。業者にとっては、集金の手間も省けるとあって、なかなか人気があるとのこと。

ギャンブリングのほうといえば、ネバダ州が合法地域。世界経済が不況といわれようが、ここでは不景気知らず。先日はアラビアのシェイク（君主）が十二月に来て、一日三億円もギャンブルで落としていった、と話題になった。石油で手に入れたカネをギャンブルで返しに来た、というわけだが、かれらはスロットなどは相手にせず、もっぱらテーブルのギャンブルばかりだったという。

また同州リノ市のカジノでは、いかさまゲームで荒かせぎした連中があったと、連邦警察が調査しているらしい。いずれにせよギャンブルには、こういうことがつきまとうわけで、日本のゲームマシンがギャンブリングに巻込れていないこと、それがいちばん望ましいことだと伝えてきている。

「街のカジノ いま勝負時」

日経流通新聞

日経流通新聞は一月三十日付の同紙で"メダルゲーム"を特集。全九段抜きで、「街のカジノいま勝負時」と、業者サイドに立った数字をあげながら、"千円札レジャー"の"五百億円産業"として、目下はげしい"混線レース"と述べている。

売り上げ高などゲーム場経営の実態を紹介しながら、"業者の声"も収録。全般的にまとまった記事になっている。それによると、ゲーム場乱立により売り上げは、一年間で二、三割ダウン。新オープンも頭打ち状態であるとのこと。

税務署、警察庁などによる取締りについても、触れていることにはちがいないが、今後の"規制"を加味して、もう少しシビアーな見地からやればよかったのではないか、と関係者は言っている。

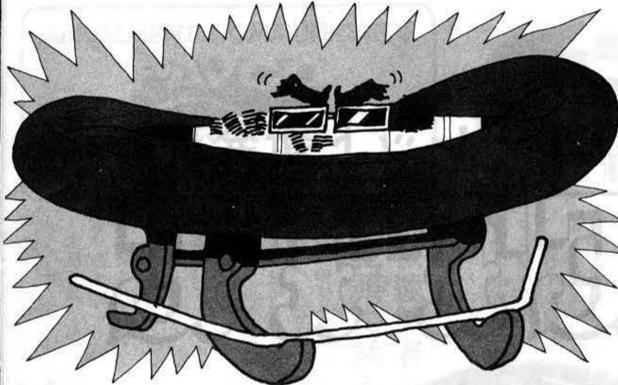
お知らせ

第13・14合併号第五面掲載の「風営法の許可対象にならないメダルゲーム機」につけた表で、偶然性がないという欄を設けました。理論上、この表のとおりで間違いはありませんが、誤解を生じる可能性があるという指摘を受けましたので、「偶然性」が「ない」、という欄を抹消して、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

ふつう一般にゲーム機というものには、すべて偶然性を遊びの内容にしており、ゲームをするという場合、玉にしろ絵柄にしろ、なにがトップになるかとかなにが出てくるかなど、偶然性があるからゲーム機になっている、というふうにご理解下さい。

北陸バーリーセールス社（旧＝加賀商行）金沢市増泉町一の三十五の二十。

プレイスポット —— ゲームのルール①

ブラックジャック BLACK JACK

日本のゲーム場にも多くのゲームテーブルが使われているが、ゲームの方法に少し混乱があるようだ。この「ゲームスポット」では日本のゲーム場での一般的な遊びかたを再確認していく。

トランプで「トウェンティワン」（あるいはトウェニーワン）というのがあるが、遊びかたはそれと同じ。カードの組合せがA（エース、この場合11）と10（もしくは絵札）であれば、合計21となり、これをブラックジャックと呼ぶところから名付けられている。芸能人、文化人などにこのゲームの愛好者が多いが、その場合は「ドボン」と呼ばれ少しちがう。

カードの数の合計が21になると最高で、22以上になるとゼロ。ゲームはひとりの親（これをディーラーと呼ぶ）となん人かの子（プレイヤー）とが、21以下で21に最も近い数を、持っているかどうか、で争う。A（エース）は1または11のどちらにでも計算でき、K、Q、Jの絵札はすべて10、その他の数札はその数どおりに計算する。

カードの組で二種類

使われるカードの枚数は場所によって異なるが、カード一組、二組、四組、六組という単位で使われる。カード一組あるいは二組の場合は、手持ち式といって、ディーラーが手に持ったカードを、裏側にしたまま客に二枚ずつ配る。そのカードを見たプレイヤーが、もう一枚と要求するにはカードを台にこするようにすればよい。また、それ以上カードが必要ないなら、賭けたチップをそのカードの上に置く。

カードが四組あるいは六組の場合は、シューバックス式といって、カードを箱の中に納めておき一枚ずつ引き出す。この場合、ディーラーはカードを二枚ともオープンにして配る。但し、ディーラーのぶんは一枚だせオープン。プレイヤーが、もう一枚と要求するには「ヒット」と声を出して言うか、あるいはカードの上をトントンと指で叩く。それ以上カードが必要でないなら、「スティ」と言うか、あるいはカードの上を手でさえぎるか、もしくはチップをカードの上に置く。

日本のゲーム場では、手持ち式とシューバックス式がはっきりしておらず、裏側にしたまま配り、「ヒット」「スティ」の区別に従っているようである。

チップは換金できぬ

ふつうプレイヤーは七人までで、ブラックジャックテーブルは、そのようにデザインされ、カードの位置もはっきり示されている。

さてゲームに先立ち、プレイヤーはチップを手に入れなくてはならない。ふつう日本のゲーム場では、千円でワンセットになっており、数十枚使える。カウンターでブラックジャックのチケットを買い、それをディーラーに渡すとチップをくれるという次第。現金の管理上、そうなっている。なおチップは、数多くなると10倍チップなどに変えてくれるが、いくらチップの数がふえても、それはお金や景品に交換してくれない。使い切ってしまうか、チップを全部ディーラーにプレゼントして、さっと席つのが常識。

格調の高さで"勝負"

ラスベガスなど本場のカジノ（公認とばく場）では、ギャンブリングが自由だから当然チップと現金の交換は自由。日本ではギャンブリングを禁じているから、できないわけである。現金とばくでない以上、日本のゲーム場では、ブラックジャックそれ自体を楽しみとしており、従って雰囲気とかムードが最も重視される。格調の高さがプレイヤーを引きつけるのである。

プレイヤーはブラックジャックテーブルの、七つのいずれかの位置にチップを、たとえば三枚置く。カードが配られる。

3と5で8。21にほど遠いから、「スティ」と言う。

さらに10をプラスして18。21までの差は3だから、ここでチップをカードの上に置いて、勝負に出る。

ディーラーも残りの一枚をオープンした。

9と8で17。ルールによると、ディーラーの数は、16以下だと必らずもう一枚引かねばならず、17以上ならそのままにしておかねばならない。

この場合、プレイヤーのほうがディーラーよりも21に近いので勝。チップは倍、この場合六枚が戻ってくる。負けるとチップはディーラーにとられ、同数だと引分け。

以上が全般的なルールで、これに①インシュランス、②スプリット、③ダブルダウン、という三つの役が加わって、ゲームを一段と面白くする。かんたんに言えば、それは次のとおり。

手役三つで面白く

インシュランス（保険） ディーラーのカード二枚のうち、オープンしたカードがA（エース）の場合、ディーラーはインシュランスを宣言する。プレイヤーは、さきに賭けてあるチップの半数分をさらに保険として出すことができる。ディーラーの数がAと10で21となったら、もとのチップはとられない。他の場合なら、後はふつうの勝負となる。いずれにしても保険分はとられてしまう。

スプリット プレイヤーのカード二枚で、はじめに同じ数字が出たときの手役。プレイヤーはこれを二組に分けて、新しい組にも同じ額で賭ける、ということができる。ただしA（エース）をスプリットした場合、後にももらえるカードは各一枚のみ。

ダブルダウン プレイヤーのはじめのカード二枚の合計が10または11の場合の手役。チップを倍賭することができるが、後にもらえるカードは一枚にかぎられる。

紳士的かけひきが鍵

プレイヤーにとってこのゲームの第一の必勝法は、「自分のカードよりもディーラーのカードを見ながら勝負すること」だと言われる。つまり、かけひきのゲームだから、そういうことになるわけである。それだけにディーラーとプレイヤーは、紳士的にふるまえる人物になっておらねばならない。

本紙に対するご意見、ご批判を「ゲームマシン」編集部までお寄せ下さい。

MINI ROULETTE

━ミニ・ルーレット新発売━

ウイル直径 430mm

- ●ゲームコーナーをはじめ、ミニサイズですから、ホテル・スナック・喫茶店などに最適です。
- ●ウィル・チップ等の付属品だけの販売もいたします。
- ●業界の常識を破る低廉価格ですから、短期で償却、高収益があげられます。
- ●代理店を募集しています。

◆仕様

長さ	1,540mm
巾	850mm
高さ	640mm

株式会社ベンドジャパン

〒577 大阪市浪速区水崎町18番地 TEL06(633)8296・(643)3857・3880